

安全データシート

整理番号 : AD-M-04-9

1. 化学品及び会社情報

会 社 : タキロンシーアイ株式会社
 住 所 : 〒671-2421
 兵庫県姫路市安富町長野 405
 担当部門 : 安富工場 床技術グループ
 電 話(緊急連絡先) : 0790-66-2285
 ファックス : 0790-66-2378
 推奨用途及び使用の制限 : 床材の接着
 作 成 日 : 2001 年 4 月 1 日
 改 訂 日 : 2017 年 4 月 1 日
 製 品 名 : タキボンド #607

2. 危険有害性の要約

GHS分類

	＜夏用＞	＜冬用＞
物理化学的危険性		
引火性液体	: 区分2	区分2
健康に対する有害性		
眼に対する重篤な損傷／眼刺激性	: 区分2	区分2
発がん性	: 区分1	区分1
生殖毒性	: 分類できない	区分2
特定標的臓器毒性、単回ばく露	: 区分1(呼吸器系) 区分3(麻酔)	区分1(呼吸器系) 区分3(麻酔)
特定標的臓器毒性、反復ばく露	: 区分1(呼吸器系、腎臓)	区分1(呼吸器系、腎臓) 区分2(血液)

記載がないものは分類対象外、もしくは分類できない

GHSラベル要素

絵表示またはシンボル



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

＜夏用＞	＜冬用＞
・引火性の高い液体および蒸気	・引火性の高い液体および蒸気
・強い眼刺激	・強い眼刺激
・発がんのおそれ	・発がんのおそれ
・呼吸器の障害	・生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
・眠気又はめまいのおそれ	・呼吸器系の障害
・長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系、腎臓の障害	・眠気又はめまいの恐れ
	・長期にわたる、又は反復ばく露による呼吸器系、腎臓の障害
	・長期にわたる、又は反復ばく露による血液の障害のおそれ

※ラベルには、冬タイプの情報で統一し表示しています。

注意書き

[安全対策]

- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・床材の接着用途以外には使用しないこと。
- ・容器を密閉し、開封した接着剤は、速やかに使い切ること。
- ・火気のある所では、使用しないこと。
- ・熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。—禁煙。
- ・防爆型の電気機器、局所換気装置、照明機器を使用すること。
- ・火花を発生させない工具を使用すること。
- ・静電気放電に対する予防措置を講ずること。
- ・保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、必要に応じて防毒マスクを着用すること。
- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・取扱い後はよく手を洗うこと。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- ・汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- ・環境への放出を避けること。

[応急処置]

- ・火災の場合、安全第一で、適切な消火剤を使用し消火すること。
- ・飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。気分が悪いときは医師に連絡すること。
- ・皮膚(又は髪)に付着した場合 : 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。流水と石鹸で洗うこと。
- ・皮膚刺激又は発疹が生じた場合 : 医師の診断を受けること。
- ・吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、医師に連絡すること。
- ・呼吸に関する症状が出た場合 : 医師に連絡すること。
- ・眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・眼の刺激が続く場合 : 医師の診断を受けること。
- ・衣類にかかった場合 : 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合 : 医師の診断、手当てを受けること。
- ・漏出した場合 : 乾いた砂やウエス等により、拭き取り回収すること。

[保管]

- ・容器を密閉して直射日光の当たらない5～35℃下で、保管すること。
- ・法令で定められた限度内で、場所を決めて保管すること。

[廃棄]

- ・内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

国/地域情報

消防法: 危険物第2類引火性固体(危険等級Ⅲ)

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別

: 混合物

化学名

: ウレタン樹脂系接着剤

成分及び含有量

※含有量は参考値

成分	含有量(%)		CAS 番号	官報公示整理番号 化審法	PRTR 法	労安法
	夏用	冬用				
ウレタンプレポリマー	25－35	25－35	—	—	非該当	非該当
トリレンジイソシアネート(TDI)	0.1－1.0	0.1－1.0	24671-62-5	3-2214	非該当	通知
無機充填剤(石英約 56%)	35－45	35－45	—	—	非該当	表示
シリカ	1－5	1－5	—	1-548	非該当	表示
酢酸エチル	25－35	15－25	141-78-6	2-726	非該当	表示
アセトン	—	5－15	67-64-1	2-542	非該当	表示
スズ化合物	—	0.1－0.5	—	—	非該当	通知

トリレンジイソシアネート(TDI)及びスズ化合物の含有量が1%未満の為、PRTR法非該当。

タキボンド#607はアスベスト及び厚生労働省の指定する化学物質(14物質)は含んでおりません。

ホルムアルデヒド放散量に関する表示(JIS A 5536) F☆☆☆☆

4VOC放散速度基準: 日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA 4VOC基準適合

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させ、医師に連絡すること。
- 皮膚に付着した場合 : 付着物を拭き取り、多量の水と石けんで洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合は、医師の診断を受けること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。眼刺激が続く場合、医師の診断を受けること。
- 飲み込んだ場合 : 口をすすぐこと。気分が悪いときは医師の診断を受けること。

5. 火災時の措置

- 消火剤 : 粉末ドライケミカル、二酸化炭素、泡消火剤、ハロゲン化物、水噴霧
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を断ち、消火剤を使用して風上から消火する。
- 消火を行う者の保護 : 保護衣を着用するほか、状況によっては不浸透性手袋、有機ガス用防毒マスク等の保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏出した場所の付近の周辺にはロープを張り、人の立入りを禁止する。
- 保護具及び緊急時措置 : 作業の際は、保護具を着用する。
- 環境に対する注意事項 : 多量の場合には流路を盛土などで囲って、流出を防止する。
- 封じ込め及び浄化の方法及び機材 : 少量の場合は、紙や布で拭き取り焼却する。
多量の場合は火花の出ないシャベル等で密閉できる容器にすくい取り焼却する。
- 二次災害の防止策 : 付近の着火源を取り除き、消火器材を準備する。漏出量の多少に関わらず、漏出液を下水、河川、海洋等に排出させてはならない。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取扱い
- 安全取扱注意事項 : 火気厳禁。炎、火花、高温体との接近、その他点火源となる恐れのある機械等の使用を禁止する。機器類は防爆構造のものを使用する。静電気対策を行い静電気放電火花による引火を防止する。取扱いは換気の良い場所で行い状況によって保護眼鏡、保護マスクを着用する。
- 保管
- 安全な保管条件 : 容器を密閉し直射日光の当たらない5～35℃下で保管する。
- その他、消防法、労働安全衛生法等の法令に定めるところに従う。

8. 暴露防止及び保護措置

	TDI	石英	シリカ	酢酸エチル	アセトン : 冬用	スズ化合物 : 冬用
管理濃度 (労働省告示第79号)	0.005ppm	未設定	2.9mg/m ³	200ppm	500ppm	未設定
許容濃度 (日本産業衛生学会)	(2010年) 0.005ppm	(2006年) 0.03mg/m ³	(2010年) 2mg/m ³ (吸入性粉塵) 8mg/m ³ (総粉塵)	(2010年) 200ppm (720mg/m ³)	(2012年) 200ppm (470mg/m ³)	未設定
許容濃度 (ACGIH)	(2010年) 0.005ppm (TWA)	(2006年) 0.025mg/m ³ (TWA)	未設定	(2010年) 400ppm (TWA)	(2012年) 500ppm (TWA)	(2004年) 0.1mg/m ³ (TWA)

- 設備対策 : 蒸気、ミストが発生する場合には、局所排気装置などの換気のための装置を設置する。

保護具

- 呼吸用保護具 : 状況に応じ、有機ガス用防毒マスクを着用する。
- 手の保護具 : 状況に応じ、PE、ゴム製等の非浸透性の手袋を着用する。

- 眼の保護具 : 状況に応じ、保護眼鏡を着用する。
 皮膚及び身体の保護具 : 状況に応じ、長袖作業衣等を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

- 外観等 : 灰褐色粘稠液
 臭い : 特徴的な臭気
 沸点 : 77℃(酢酸エチル)
 56.5℃(アセトン:冬用)
 引火点 : -4℃(密閉)(酢酸エチル)
 -20℃(密閉)(アセトン:冬用)
 爆発限界 : (TDI) 下限0.9% 上限9.5%
 (酢酸エチル) 下限2.2% 上限11.5%
 (アセトン:冬用) 下限2.2% 上限13.0%
 蒸気圧 : 10 kPa (20℃)(酢酸エチル)
 24.5 kPa (20℃)(アセトン:冬用)
 比重(相対密度) : 1.30~1.50(23℃)
 自然発火温度 : 427℃(酢酸エチル)

10. 安定性及び反応性

- 反応性・科学的安定性 : 通常の取扱い条件下においては安定。
 危険有害反応可能性 : 水・アルコール・アミンなどの活性水素と反応し発熱する。
 強酸化剤、強塩基、強酸と反応する。
 避けるべき条件 : 高温、火災、スパーク及び着火源
 混触危険物質 : 塩基性物質やある種の金属化合物の存在によって重合発熱する。
 危険有害な分解生成物 : 燃焼等によりCO等の有害ガスを発生する恐れがある。

11. 有害性情報(人についての症例、疫学的情報を含む)

急性毒性(50%致死量等を含む)

	TDI	石英	シリカ	酢酸エチル	アセトン :冬用	スズ化合物 :冬用
LD ₅₀ (経口)ラット	3,060mg/kg	—	3,160mg/kg	>5,000mg/kg	>5,000mg/kg	175mg/kg
LD ₅₀ (経皮)ウサギ	10,000mg/kg	—	—	—	>5,000mg/kg	—
LC ₅₀ (吸入)ラット	26ppm/4h	—	LC ₀₁ :>0.139mg/L (4h)	—	75.8mg/L (32,000ppm)	—

- 皮膚腐食性／刺激性 : 4時間の皮膚刺激性試験の結果、TDI80/20の原液は腐食作用が認められた。(TDI)
 眼に対する重篤な損傷／眼刺激性 : 目に入ると激しく痛む。すぐこれを完全に除かないと視力障害を残すことがある。(TDI)
 結膜炎を起こす。(酢酸エチル)
 蒸気は人の眼を刺激する。しかしばく露が止まると刺激性は続かない。ウサギではsevereという結果が報告されている。角膜上皮は破壊されるが、基質まで至らず、角膜上皮の破壊は4～6日で回復する。アセトンは腐食性の眼刺激性ではない。
 以上の記述より、区分2Bとした。(アセトン:冬用)
 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 繰り返し暴露により感作が成立し、気管支喘息に似た症状を起こすことがある。
 日本産業衛生学会[気道 第1群、皮膚 第2群]、ACGIH[SEN]に分類される。(TDI)
 生殖細胞変異原性 : in vivo小核試験の結果は陰性である。
 (TDI、酢酸エチル、アセトン:冬用)
 発がん性 : IARCの評価はグループ2B(人に対して発がん性を示す可能性がある)に該当する。(TDI)
 IARCの評価はグループ1に該当する。(石英)
 生殖毒性 : ラットの高濃度暴露(11,000ppm(20mg/L))でわずかな発生毒性(胎児体重減)が、マウスの高濃度暴露(6,600ppm(15.6mg/L))で胎児

特定標的臓器毒性、単回ばく露	体重減、後期吸収発生率増が報告されている。 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い。(アセトン:冬用) : 400ppm暴露で、人の上部呼吸器刺激が報告されている。 致死濃度に近いばく露で麻酔および肺損傷が報告されている。 (酢酸エチル) 麻酔作用を有する。(アセトン:冬用)
特定標的臓器毒性、反復ばく露)	: 長時間大量に吸入すると塵肺症を発症する場合がある。(石英) ボランティアによる試験で500ppm、6時間/日、6日の暴露群に白血球、好酸球の有意な増加及び好中球の貪食作用の有意な減少が観察されている。(アセトン:冬用)

12. 環境影響情報

生態毒性	: 混合物としての知見なし
残留性・分解性	: 混合物としての知見なし
生体蓄積性	: 混合物としての知見なし
土壤中の移動性	: 混合物としての知見なし

13. 廃棄上の注意

廃油と廃プラスチック類の混合物に相当し、処理は許可を受けた処理業者に委託する。
 廃棄の際は危険性情報の反応性をふまえて処理を行うこと。

14. 輸送上の注意

「取扱い及び保管上の注意」の項の記載による他、引火性の強い有毒な液体に関する一般的注意による。

国連分類	: 3	(引火性液体類)
国連番号	: 1133	(接着剤 容器等級Ⅱ)

15. 適用法令

労働安全衛生法	
表示対象物質	: 該当(酢酸エチル、石英、シリカ、アセトン:冬用)
(第五十七条 施工令第十八条)	
通知対象物質	: 該当
(第五十七条の二 施工令第十八条)	(酢酸エチル、石英、TDI、シリカ、アセトン:冬用、スズ化合物:冬用)
有機溶剤中毒予防規則	: 第2種有機溶剤(酢酸エチル、アセトン:冬用)
化学物質管理促進法(PRTR法)	: 非該当
	TDI及びスズ化合物はPRTR法対象物質ですが、閾値未満である為非該当。
毒物及び劇物取締法	: 非該当
消防法	: 危険物第2類引火性固体(危険等級Ⅲ)
危険物船舶運送及び貯蔵規則	: 引火性液体類
建築基準法(2003年7月より)	: 使用制限なし

16. その他の情報(記載内容の問い合わせ先、引用文献等)

タキボンド#607はアスベスト及び厚生労働省の指定する化学物質(14物質)は含んでおりません。

ホルムアルデヒド放散量に関する表示(JIS A 5536) : F☆☆☆☆

尚、タキボンド#607はJIS A 5536(床仕上げ材用接着剤)製品認証を受けております。

4VOC放散速度基準: 日本接着剤工業会自主管理規定 JAIA 4VOC基準適合

参考資料	: 化学物質管理促進法対象物質全データ(化学工業日報社) : 各社使用化学製品の「安全データシート」 : GHS 分類結果データベース(独立行政法人製品評価技術基盤機構) : GHS ラベル SDS 情報(安全衛生情報センター)
------	---

・記載内容は現時点で入手できた資料や情報に基づいて作成していますが、危険・有害性の評価は必ずしも十分ではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。
 ・取扱に際しましてはご使用者各位の責任において、安全な使用条件を設定くださるようお願いいたします。